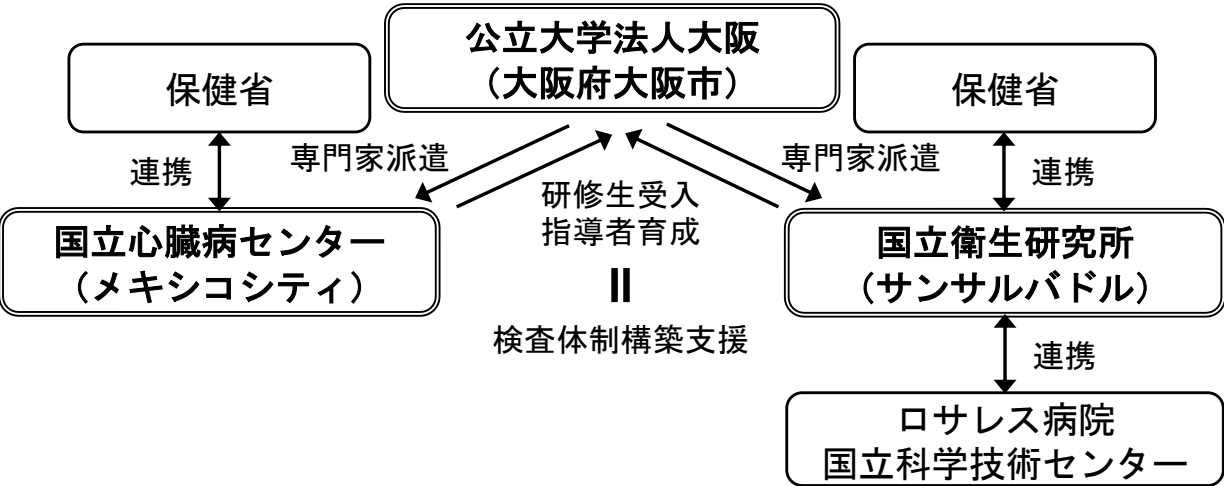


作成日：令和8年5月19日

メキシコ、エルサルバドルにおける「現地流行株に最適化したPOCTとハイ・プレックス分子診断
の統合によるシャーガス病検査体制の標準化と人材育成」
3年計画の2年目

シャーガス病は、ラテンアメリカの僻地に暮らす貧困層に偏って影響を与える顧みられない熱帯病である。流行地では検査資源が限られ、スクリーニングに用いられる迅速診断キット（POCT）は流行株差により性能が安定しない。また中央に整備されたddPCRやMALDI-TOFなどの高度分子診断機器も、人材不足により十分に活用されていない。本事業の目的は、現地流行株に最適化したPOCTによるスクリーニング手法の標準化と、ddPCRやMassARRAYを用いたハイ・プレックス分子鑑別診断を実運用レベルで実装することにより、シャーガス病診断の質とアクセスを向上させることである。大阪公立大学の医師らが、メキシコおよびエルサルバドルの国立研究所・中核病院と連携し、医師、臨床検査技師を対象に、現地での理論研修から日本での高度技術研修、さらには実装型研修へと展開する双方向トレーニングを実施する。実践形式のハンズ・オン・トレーニングを通じて、POCTおよび高度分子診断を独立して担える人材を育成する。3年間の事業期間を通じて、研修修了者が指導者として次世代育成を担う体制を確立し、診断アルゴリズムの定着と診断格差是正への波及を目指す。



＜R8年度の研修予定＞

- R8年 8月 専門家派遣（エルサルバドル、2名）
✓ POCTを用いたスクリーニング手法、ハイ・プレックス分子鑑別診断のための理論研修
- R8年11月 専門家派遣（メキシコ、2名）
✓ POCTを用いたスクリーニング手法、ハイ・プレックス分子鑑別診断のための理論研修
- R9年 1月 研修生受入・指導者育成（計2名）
✓ POCT最適化、分子鑑別診断高感度化／ハイ・プレックス化の実技研修